

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢吹町立矢吹中学校（福島県）

## 【取組内容①】 学びの充実を図るための全教員による活用実践

### [1] 学習場面の確認と取り組みについての共有 学習場面を念頭においた実践

3 ICTを活用した指導方法の開発  
(学習場面ごとのICT活用を類型化し、そのポイント及び実践事例を掲載)

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
<p>教科や実習を拡大・縮小、進度や進捗の調整を柔軟に行うことが可能となる。</p> <p>A1 動画による教材の提示</p> <p>音源の拡大・縮小や書き込み、字幕・字幕の活用</p> <p>A3 思考を深める学習</p> <p>シミュレーションなどのデジタル教材活用による思考を深める学習</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自分のペースに合わせて学習できること、自分のペースで学習することが可能となる。また、一人一人が学習進度を管理することができ、自分の理解や理解の程度に応じた学習を履修することが可能となる。</p> <p>B1 問題に即した学習</p> <p>B2 調査活動</p> <p>B3 思考を深める学習</p> <p>B4 実践制作</p> <p>B5 実習学習</p> <p>B6 デジタル教材を用いた資料収集、実習や動画等による記録</p> <p>B7 デジタル教材を用いた資料収集、実習や動画等による記録</p> <p>B8 デジタル教材を用いた資料収集、実習や動画等による記録</p>	<p>タブレットや電子黒板等を活用し、教室内の距離や物理的な制約の無い状態で学習することが可能となる。また、学習進度や理解の程度に応じた学習を履修することが可能となる。</p> <p>C1 発表や話し合い</p> <p>C2 協働での意見整理</p> <p>C3 発表や話し合い</p> <p>C4 協働制作</p> <p>C5 発表や話し合い</p> <p>C6 協働制作</p> <p>C7 発表や話し合い</p> <p>C8 協働制作</p>

学習場面を具体的にすることで、実践事例の標準化と共通化を図っています。教員間で事例を参考にしたり、活用しあったりしやすいようにすることで、教科の垣根を越えたICT活用を促進させることが目的です。

### [2] 授業改善と連携したICT活用の実践 本質的な学び、学びの深化に着目した活用

	授業改善に向けた「学習者」の視点	授業改善に向けた「授業者」の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶことに興味や関心を持つ</li> <li>自分のキャリア形成の方向性と関連付ける</li> <li>見通しをもつ</li> <li>見方を変えて取り組む</li> <li>自分の学習活動を振り返り通って次につなげる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業準備を徹底させる</li> <li>具体物を提示して引きつける</li> <li>子供が明らかにしたくなる</li> <li>学習課題を設定する</li> <li>子供が自ら考える方向性をつかまそうにする</li> <li>学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる</li> <li>子供が自分の考えを持つようにする</li> <li>子供の考えを見る</li> <li>子供の思考に即して授業展開を考える</li> <li>子供の考えを定めてまとめる</li> <li>その日の学びを振り返る</li> <li>新たな学びに目を向けさせる</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>学問的土壌を通じ、自己の考えを広げ深める</li> <li>教員と対話を通じて、自己の考えを広げ深める</li> <li>他者の人と対話を通じて、自己の考えを広げ深める</li> <li>自分の考えを言葉にしてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考を交流させる</li> <li>交流を通じて思考を広げる</li> <li>協働して問題を解く</li> <li>板書や黒板に教師が子供の学びを引き出す</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等の特質に応じた「見方・考え方を働かせる」</li> <li>知識を相互に関連付けてより深く理解する</li> <li>問題を発見して考えを形成する</li> <li>問題を発見して考えを形成する</li> <li>思いや考えを基に創造したりすることに活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質疑・応答を徹底させる</li> <li>（つけた）たいを明確にする</li> <li>単元や各単元の目標を把握する</li> <li>ねらいを達成し、子供の学びを具体化する</li> <li>教材の価値を把握する</li> <li>単元及び各単元の計画を立てる</li> <li>目標の達成状況を評価する</li> </ul>

・授業改善など、視点にもとづいたICT活用効果の検証  
・アクティブラーニング、主体的、対話的で深い学びのための授業づくり

ICT活用で「深い学び」をどう引き出すか？

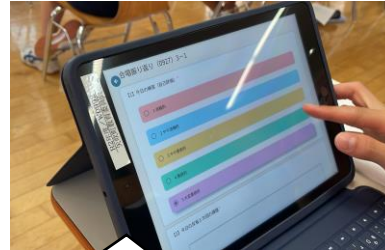
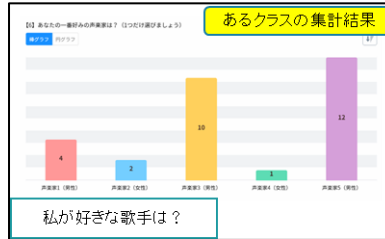
・「主体的、対話的で深い学び」へ学びの本質へ  
・分業、協業へ多様な学習形態へのチャレンジ

ICT活用を利用目的としないこと、学びの本質に迫るためのツールにすることが目標です。ICT活用によって生徒の深い学びを引き出すための活用を主眼として実践を行っています。

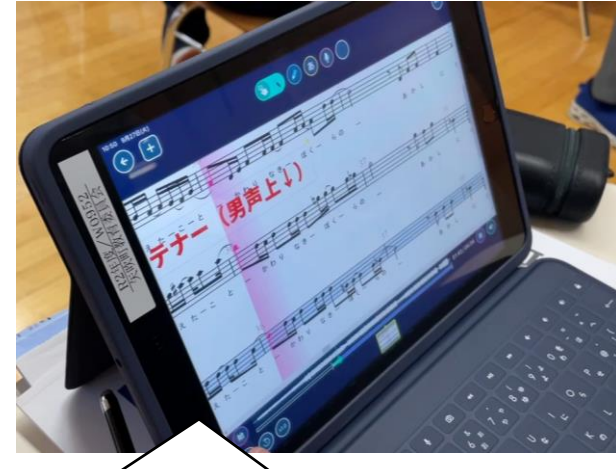
### [3] 活用実践例 音楽科より～個別最適化、深い学びを引き出すためのICT活用事例



モニターやタブレットに表示された楽譜を見ながら、音楽を鑑賞することができます。気になるところを個別に、何度も繰り返し鑑賞しながら、自分専用の楽譜に書き込みを行うことができます。



クラウドをフル活用して、授業内の資料やアンケート、学習記録を蓄積しています。



歌唱練習も個別に行います。音声に合わせて、楽譜と歌詞が表示されます。個別練習のあとに録画したデータをクラウドに保存し、全体合唱のできあがりです。